

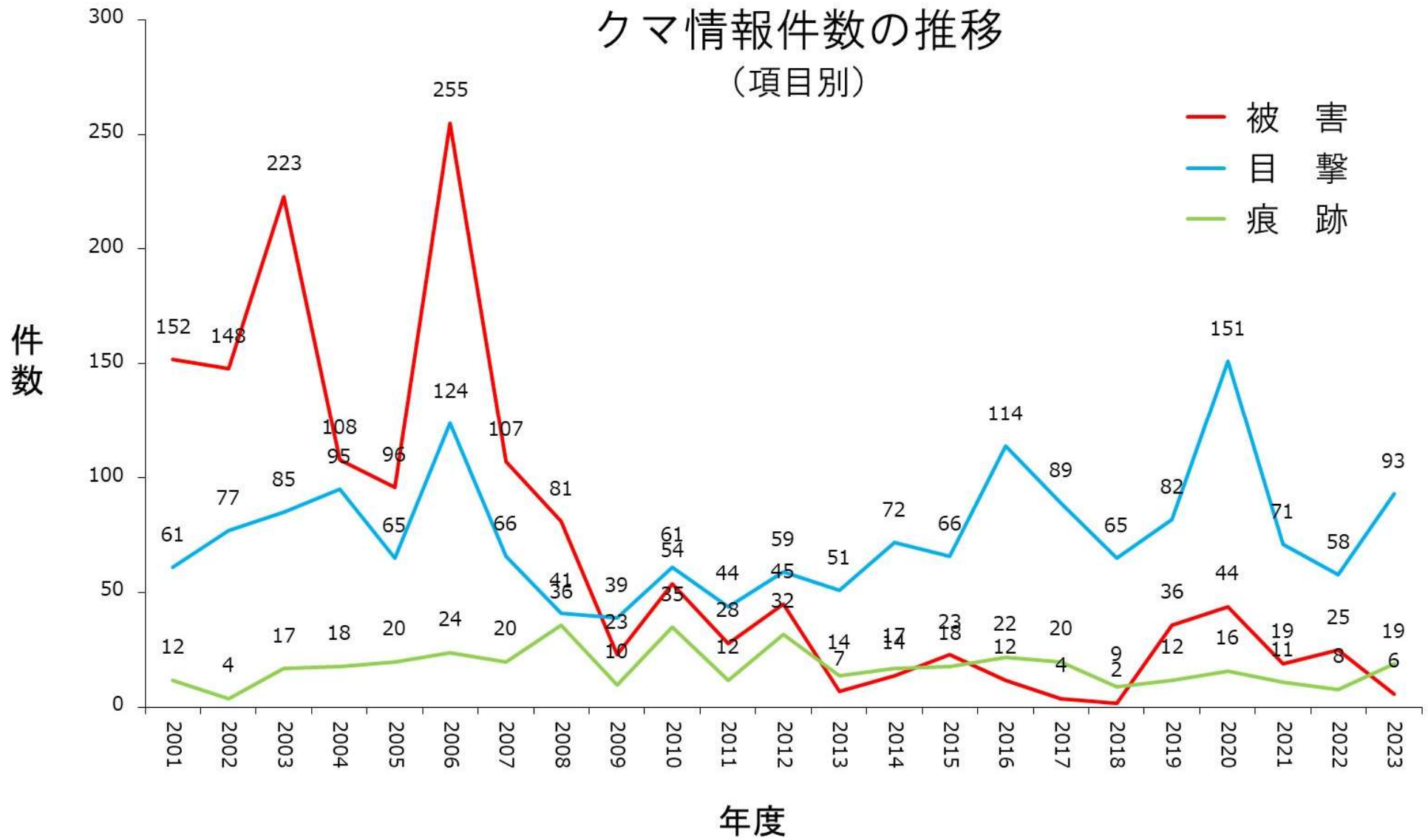
# 2023年軽井沢の状況

ピッキオ 楠部真也

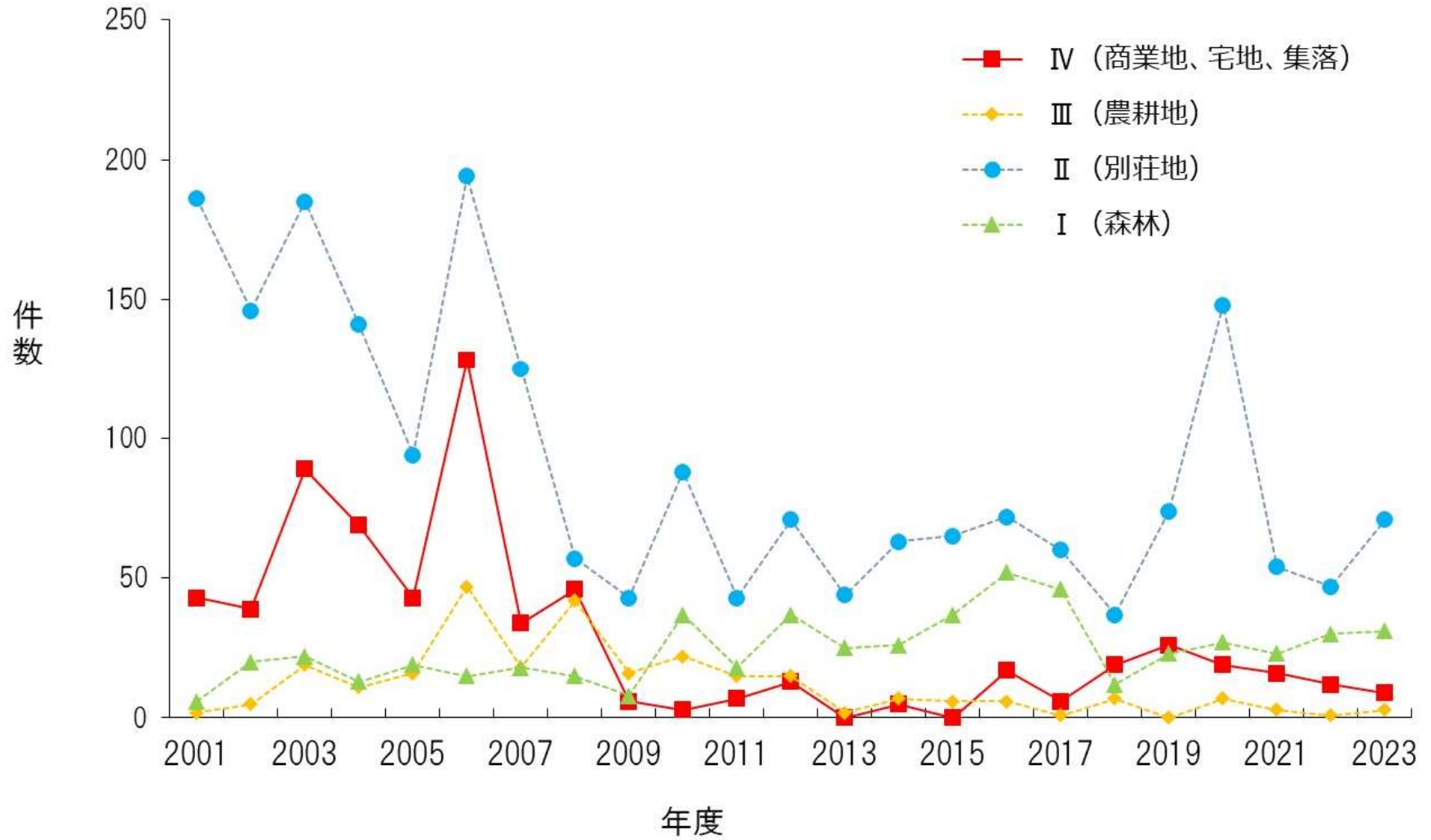
## 軽井沢では . . .

- 25年ほど前からツキノワグマによる被害（ゴミあらし、住居侵入、農業被害等）が増加していた。
- それまでは駆除しかなかったが、個体管理という手法を取り入れ、同時に誘引物管理を徹底した。（1999年頃より）
- 個体管理と誘引物管理を行う事で、人の住むエリアの被害を大きく減少する事ができている。（駆除頭数は捕獲頭数の約10%ほど 年約1.3頭平均）
- 大量出没と言われている2023年もそれほど大変な年ではなかった…

# クマ情報件数の推移 (項目別)



## 管理区別クマ情報の推移



軽井沢の保護管理は海外から評価されている。

- 日本ではベアドッグに大きな注目が集まっているが、海外からは個体管理が注目されている。
- 海外インターンシップを2015年から始めているが、欧米豪の著名な大学からも参加が増えている。（2024年はインターン枠がほぼ埋まってきている）
- JNTOの現地事務所などからも評価は高く、海外メディアの取材が増加中⇒ツアーによる売り上げは増加。

## クマ保護管理にあたって今後必要だと思われる事

感情論ではなく何の為にクマと共存していく  
必要があるのかを明確にする

- クマが地域にいなくなってしまうもしくは減少した場合の影響を様々な角度から検証する。
- 輸出産業としてのインバウンド観光を考えた際に、どのような影響があるのかも経済的な視点から考察する。

# 野生動物の保護管理の未来

- 軽井沢におけるクマ対策の費用は本当に高くして他の自治体では無理なのか??
- 人口減少社会の今、自然保護や環境保全の付加価値を他の事業（土木建築、他の産業等）と比較するべきではないか？
- 日本人としてこのまま世界（特に欧州）からの批判を浴び続けてもよいのか？

短期的な視点や予算ありきではなく、自分の子供たちが日本人として世界の人々からどのように見られたいかを考えて欲しい。

ありがとうございました。